



V. 社会的取組み

1. 組織統治

(1) リスクマネジメント

① 概要

リスクとは、JAMSTECの事業目的の達成を阻害し、望ましくない結果をもたらす危険性や不確実性のことをいい、財務上や研究開発上のリスク、社会規範上のリスクなど、多様なものがあり、事業活動に伴う公害の発生や油の流出などに代表される環境汚染などの環境影響についてもこのリスクに含まれます。リスクマネジメントとは、これらのリスクを的確に把握し、低減化を図るための仕組みの事をいいます。

JAMSTECではリスクマネジメントの強化に向け、2010年5月にリスクマネジメント基本方針とリスクマネジメン

ト規程を制定しました。具体的なリスクマネジメントの活動としては以下のような事項を実施し、組織一丸となってリスクマネジメントに取り組んでいます。

- リスクマネジメント委員会を開催して、リスクマネジメントに関する諸規程及び体制の整備、リスク対応状況等について検討・審議する。
- 各部署にリスクマネジメント推進担当者を配置し、リスクマネジメントの推進を図る。
- 職員に対するリスクマネジメント研修を定期的で開催する。
- 監査室によりリスクマネジメントに関する監査を行い、監査結果を理事長に報告する。

リスクマネジメント基本方針

独立行政法人海洋研究開発機構（以下「機構」という。）は、機構が抱える多様なリスクを的確に把握し、その発生の可能性を低減し、また発生した場合の損失の最小化、早期復旧及び再発防止に努めることにより、機構の事業目的の達成を容易にし、国民の皆様から信頼される組織を目指すこととする。

リスクとは、機構の事業目的の達成を阻害し、望ましくない結果をもたらす危険性や不確実性のことをいう。ここでいうリスクには、安全に係るリスク、研究開発に係るリスク、経営管理に係るリスク等の機構の事業活動に係る全てのリスクを含む。

機構のリスクマネジメント活動は、以下の事項の達成を目標とする。

1. 機構の各事業に相当程度の影響（損失）を与え得るすべてのリスクを発見・特定し、経営レベルで掌握する。
2. 統一的な指標に基づき、各々のリスクが経営に与えるインパクトを客観的に数量化し、対応の優先順位を明確化する。
3. 主要なリスクについて、平常時の対応を主管する組織を明確化する。
4. 主要なリスクについて、各リスクの対応策を整備する。
5. 緊急時の対応について、責任者および対応組織とその権限・責任が明確化され、機構内の指揮命令系統を確立する。
6. 定期的な教育・研修を通じ、全役職員がリスクマネジメントに係る諸規程の内容を熟知する。また、自らの役割を認識し、責任ある的確な行動をとる。

理事長は、機構の最高責任者として、機構のリスクマネジメントを総理する。

機構におけるリスクは、リスクマネジメント規程及び安全管理規程並びにこれらに関連する諸規程に基づき、的確に把握し、対応する。

② 2014年度取組み

2014年度はJAMSTECの職員に対し、次の説明会や研修を行いました

- 内部者（インサイダー）取引防止に関する説明会（2014年7月16, 23日）
- 電子メールの外部転送ポリシー説明会（2014年10月17, 20日）
- 研究活動・公的研究費に係る不正防止ガイドライン改正と機構における対応案の説明会（2015年1月27日）

(2) コンプライアンス（法令等の順守）

① コンプライアンスの体制

コンプライアンスとは、狭義で「法令順守」の意味で理解されることもありますが、明らかな法令違反とは言い切れない不祥事についても対応する必要があることから、JAMSTECでは法令に留まらず社会規範の順守までも含むものとして考えています。

JAMSTECでは、2007年12月に「コンプライアンス行動規準」と「コンプライアンス規程」を制定し、不正・不法行為の未然防止に取り組んでいます。また、研究活動の不正につい

ては、2006年9月に「研究活動行動規準」と「研究活動における不正行為への対応に関する規程」を定めました。

<http://www.jamstec.go.jp/j/about/compliance/>

② 法令順守の状況

JAMSTECの事業活動において関係する環境関連法令の順守状況は次の通りです。2014年度においては法令に違反した事実はなく、処分は受けていません。

適用を受ける主な環境関係法令	主な法令の目的	遵守状況
エネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネ法）	電力などのエネルギーの合理的使用、省エネ	○
国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）	環境負荷の少ない物品の調達	○
国等における温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の推進に関する法律（環境配慮契約法）	環境負荷が少なくなるように工夫した契約	○
環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律（環境配慮促進法）	事業活動に係る環境配慮等の状況に関する情報の提供	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）	産業廃棄物などの適切な処理	○
大気汚染防止法	大気に放出するばい煙等の管理	○
水質汚濁防止法	公共用水域（海域、河川など）へ排出する排水の管理	○
下水道法	下水道に排出する排水の管理	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）	対象となる化学物質の排出量の把握	○
海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律（海洋汚染防止法）	船舶などから海洋への油や廃棄物排出の規制	○
放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律（放射線障害防止法）	放射線障害の防止と放射性同位元素等の適切な管理	○
核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律（原子炉等規制法）	核原料物質、核燃料物質、原子炉の平和利用の確保と、適切な管理及び規制	○
遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律（カルタヘナ法）	組換え DNA 実験の適正な実施	○

○：良好 △：指導あり ×：違反あり

(3) 個人情報の保護

近年、高度情報通信技術の進展により、個人情報の利用が著しく拡大し、コンピューターやネットワークを利用して大量の個人情報が処理されています。そこで、個人情報の適正な取扱いに関する基本理念などを定め、個人情報の有用性に配慮しつつ、個人の権利利益を保護することを目的として、2003年5月、個人情報保護に関する各種の法律（「個人情報の保護に関する法律」等）が制定され、個人情報を取り扱う事業者が遵守すべき法的義務が定められました。

国立研究開発法人であるJAMSTECの場合、2005年4月に施行された「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」やその関係法令が適用されており、これ

らの諸法令を遵守するために、「個人情報保護管理規程」等を定めて個人の権利利益の保護を行っています。

また、情報システムの継続的かつ安定的な運用及び機構内で電子的に作成されたり伝送される情報についての安全性と信頼性を確保するため、「情報セキュリティ管理規程」を定めています。

なお、2014年度は、新任職員向け研修のほか、以下の個人情報保護に関する研修会を実施しました。

○個人情報保護教育研修会【全職員向け】

(2014年9月19、26日)

○個人情報保護教育研修会

【個人情報保護管理者・担当者向け】

(2015年2月17日)



(4) 知的財産権の管理

知的財産権とは、発明や創作によって生み出されたものを、発明者の財産として一定の期間保護する権利です。

JAMSTEC が我が国のみならず国際的に海洋科学技術の中核的機関として機能していくためには、海洋に関する「知」を不断に創出し、それらを社会経済の発展のために活用されるよう発信していくことが不可欠です。JAMSTEC は優れた人材と世界最高水準の技術を併せ持つ世界有数の研究開発能力を有しており、先進的な研究開発成果を知的財産の形で広く公表していくとともに、産業界や他の機関が利用しやすいように、組織を挙げた取組みを進めていくこととしています。

JAMSTEC では「知的財産に関する基本的な考え方（知財ポリシー）」を制定し、

- 知的財産の定義
- 知的創造サイクルの活用
- 知的財産管理をビルトインした研究開発活動の推進
- 知的財産権の帰属・承継
- 研究成果の社会への還元による社会貢献
- 企業等との連携における透明性の確保

を基本的な考え方として「職務発明等活用規程」を定め、知的財産の創造、保護、管理、活用に積極的に取り組んでいます。

なお、2015年3月末の時点での知的財産の保有数は以下の表とおります。

知的財産の保有数

	国内	海外
特許	116	36
特許出願中	54	93
意匠	2	2
商標	17	0
プログラム著作物登録	13	—
ノウハウ*	7	—

(*）企業等に実施許諾する場合に登録認定

JAMSTEC TRIVIA



13. 梅雨前線の正体（新しい気象技術と気象学）

茂木耕作 著／東京堂出版刊

「科学は小説より奇なり」!!

付き合いにくい梅雨を楽しむための見方とは？不快を愛着に、不思議を納得に、知識を理解に変える旅へご案内します。気象観測研究者が、梅雨と付き合いやすくなるための三つの体験ツアーにご案内します。当たり前に見ていた天気図の中にある意外な発見、梅雨を観にでかけた際の予想外の興奮、そして理解が深まるにつれて増える出会いと感動と新たな謎。梅雨について一般的に言われていること、ちょっと踏み込んだ話、最先端の研究の現状を「体感」するための一冊。みなさんも経験的に「聞いたことは、忘れがち。観れば、覚えていられる。でも本当に理解できるのは、取り組んだとき。」ということを感じていませんか。梅雨前線について何を取り組めば、理解できるのか？あなたもまずはその扉を開いて出かけてみましょう！



2. 労働慣行

(1) 健康の管理

横須賀本部及び横浜研究所には健康管理室を設け健康管理専門の職員が常駐しているほか、週に1～2回産業医による健康相談を行っています。

そのほかにも、法令に定めるところにより定期健康診断、特殊健康診断を実施するとともに、健康保険組合の健診補助制度を活用した人間ドック受診者への補助を行うなどして、職員に健康の維持・増進を働きかけ、また管理を行っています。

(2) メンタルヘルス

JAMSTECでは職員のメンタルケアのため、カウンセラーの資格を有した者が常時相談を受け付けているほか、外部機関と提携しカウンセリングを受けることのできる体制を整えています。

また、年に1回、イントラネット上で実施できるメンタルタフネスのセルフチェックの機会を設けています。その他、外部の相談窓口として、従業員支援プログラムを導入しています。

(3) ワーク・ライフバランス

ワーク・ライフバランスとは、仕事と仕事以外の生活を調和させ、誰もが働きやすい仕組みをつくることといわれています。JAMSTECにおいても仕事と子育ての両立を可能にし、働きやすい環境の整備に取り組んでいます。具体的には、出産・育児休暇制度に関する説明会の開催や、育児休業者復帰支援プログラムなどの支援活動、また、各制度の理解増進及び積極的な利用を図るため、「産前産後休暇・育児関連制度ハンドブック」を作成して職員向けに公開しています。2014年度には、仕事と育児の両立で生じる様々な問題点について意見交換を行う場「育児カフェ」を開催しました。

- 開催日 横須賀本部 (2014年5月14日)
横浜研究所 (2014年5月19日)

○寄せられた意見に対する取り組み状況

- ・ 休暇制度の柔軟な運用を求める要望を踏まえ、「年次有給休暇の積立取扱規則」を改正し取得条件を緩和しました。
- ・ イン트라ネット上に子育て関連情報を掲載するページを新設しました。妊娠初期から職場復帰後まで、育児中の職員の参考になる情報を各まとめました。

また、高齢化が進む社会に備えるため、仕事と介護の両立を可能にするための環境整備にも取り組んでおり、「介護

関連制度ハンドブック」にまとめて、各制度の紹介をしています。

(4) ハラスメントの対応

セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)に代表される職場における様々なハラスメントは、職員の人としての尊厳を不当に傷つける社会的に許されない行為であるとともに、職員の能力発揮を妨げ、職場秩序を乱し適切な業務遂行の障害となることに繋がります。職場でのハラスメント対策については、セクハラに関しては法律により事業主に配慮が求められていますが、昨今ではセクハラ以外の様々なハラスメントも大きな問題となっています。特にパワー・ハラスメント(パワハラ)やアカデミック・ハラスメント(アカハラ)などは職場環境を悪化させるだけでなく、職員の心身の健康を害し長期療養を要する場合もあり、組織に対する影響は看過できないものとなっています。

JAMSTECでは様々なハラスメントを防止し排除するため、「ハラスメントの防止等に関する規程」を制定しています。また、相談窓口を設けて随時相談を受け付けているほか、「ハラスメント防止のためのハンドブック」を作成して職員に配布し、ハラスメントを未然に防止し、快適に働くことのできる職場づくりのため、また良好な人間関係を築くため、ハラスメントの防止と啓発に取り組んでいます。

ハラスメント防止のためのハンドブック

職場でのハラスメントとは、セクハラ、パワハラ、アカハラ、その他様々な行為を指し、被害者の心身の健康を害し、業務遂行に支障を及ぼす行為をいいます。本ハンドブックでは、ハラスメントの防止と啓発を図るため、被害者の権利を保護し、加害者の責任を明らかにし、職場環境の改善を図ることを目的として作成しました。

本ハンドブックは、各部署の責任者等に配布して、各部署で活用していただくことを想定しています。また、本ハンドブックの内容を踏まえ、各部署でハラスメント防止の取り組みを行うことを推奨しています。



ハラスメント防止のための
ハンドブック序文



3. 社会貢献

(1) 社会貢献の方針

JAMSTEC は、海洋・地球環境分野における調査・研究開発を実施し科学技術の進展に貢献していますが、こうした活動の他に社会への直接的な貢献についても、本来業務の一環として積極的に取り組んでいきます。

JAMSTEC は、社会への貢献として、子供たちをはじめ一般の方々との交流を通じ、海洋や地球についての知識の普及と理解の増進、教育界との連携による人材の育成、さ

らに産業界との積極的な交流を通じた研究開発成果の産業利用などに取り組みます。

JAMSTEC は、こうした社会貢献への取り組みのため、毎年度の総事業費の一定割合（当面 1% を考えています）を振り向けるとともに、自らの業務がどのようにしたら社会とつながって行くことができるかを念頭に置いて、職員がそれぞれの業務に従事できるような環境を作っていきます。

JAMSTEC が社会貢献に取り組むに当たっての基本方針は、以下の通りです。

1. 通常業務におけるアウトリーチ活動の重視

JAMSTEC では、中期計画の推進のため、より具体的なアクションプランを作成し、その中で各研究プログラムの推進や機構の管理運営に関し、社会へのアウトリーチに向けた目標を示しています。

その実現に向けて、役職員が進捗することが、まず重要であると考えます。

2. 社会貢献型事業の実施

次の 3 つの視点から社会貢献への取り組みを強化します。

(1) 科学技術理解増進活動の充実

対話型重視のアウトリーチ活動（普及・啓発活動）を実施します。

海洋・地球科学技術の知識を体系的に提供できるよう努力します。

学校、水族館・科学館、地域等とのネットワークやボランティアの参加を得て、多様な年齢層・社会層における海洋・地球に関する科学技術への関心・知る意欲を高めるための活動を進めます。

(2) 人材の育成への寄与

将来この分野に進みたいと思う小・中・高校生が増えるよう、海洋・地球科学技術に接する機会を提供し、夢や期待を育むよう努めます。

大学、産業界、自治体等との連携の下、若い世代の「伸びうる能力」を最大限引き出し、高い専門性を有する研究開発プロフェッショナルを育てます。

(3) 成果の活用

研究成果の中で、追加的努力によってすぐに社会に役立つようなものは、社会貢献型事業として重点的に進めます。

成果が広く社会で活用されるよう、知的財産化します。

海溝型地震の即時検知・通報システム等、社会に直接役立つ新技術の開発を進めます。

(2) 社会貢献活動の紹介

新江ノ島水族館では、JAMSTEC の有人潜水調査船「しんかい 2000」（2004 年 3 月退役）が外部展示されています。

有人潜水調査船「しんかい 2000」は、人が乗船して深海を調査するために作られた日本初の本格的な潜水船であり、1981 年の運航開始から 2004 年の退役まで、世界各地の海で 1,411 回の潜航を行い、深海調査を通して新たな海洋科学技術の分野を拓くとともに、有人潜水調査船の建造・運航技術を飛躍的に発展させました。「しんかい 2000」の最も潜航回数が多かった相模湾に隣接する新江ノ島水族館にて 2012 年 7 月に「しんかい 2000」の常設展示コーナー「深海Ⅱ～しんかい 2000～」がオープンしました。同船が

もたらした有意な科学的・技術的成果と将来に向けた海洋科学技術の意義と役割について理解を深めることを目的に、毎年開催されている「しんかい 2000」公開整備などのイベントへの協力を行っています。

2014 年 3 月までに 4 回行われた整備イベントでは、「しんかい 2000」の運航に携わっていたかつての「しんかい 2000」運航チームによる船の構造についての説明、潜航調査の体験談、機体外皮や覗き窓の取外し、取付け、スラップガンなどの調査観測機器（ペイロード）の取付けや CTFM（前方監視）ソーナーの作動実演などを行い好評を博しました。

<実施概要>

- 開催場所
新江ノ島水族館（神奈川県藤沢市片瀬海岸 2-19-1）
- 開催日時
2014年 7月 6日（日） 14時00分～15時30分
2014年 12月 28日（日） 14時00分～15時30分



元「しんかい 2000」 運航チーム



取り付け作業実演風景

JAMSTEC
TRIVIA

14. JAMSTEC カレンダー

JAMSTEC では毎年、研究活動や深海生物の写真で構成した JAMSTEC カレンダーを販売しています。JAMSTEC 各拠点のグッズ販売所及びホームページにて購入することができます。

2015年の JAMSTEC カレンダーでは、25周年を迎える「しんかい 6500」特集として、様々な場面で撮影された「しんかい 6500」の選りすぐりの画像を集めました。※ 2015年版の販売は終了いたしました。





4. 国際協力・外部機関との連携

(1) 国際連携とプロジェクトの推進

JAMSTEC では、海洋科学技術の中核機関として国際協力を推進し、JAMSTEC 及び我が国の国際的プレゼンスの向上を図り、また地球規模課題の解決に貢献するため、次の事項を実施しています。

- ①国連機関・国際条約の対応、及び海外研究機関との連携等
 - 政府間海洋学委員会 (IOC)、国際科学会議 (ICSU)、全球地球観測システム (GEOSS) 等への貢献
 - 国連海洋法条約 (UNCLOS)、気候変動枠組条約 (UNFCCC)、生物多様性条約 (CBD) 等への適切な対応
 - 海外研究機関との研究開発協力及び交流の促進
 - 機構の国際化促進
- ②国際深海科学掘削計画 (IODP) の推進
 - 国際深海科学掘削計画 (IODP) を推進する地球深部探査船「ちきゅう」の運用
 - 「ちきゅう」乗船研究者に対する科学的、技術的支援
 - 掘削コア試料の保管・管理・提供及び取得したデータの円滑な提供
 - 日本地球掘削科学コンソーシアム (J-DESC) を通じた研究者間コミュニケーションの促進
- ③地球規模課題への対応
 - 気候変動、物質循環、生物多様性等の地球規模課題への貢献

(2) 共同研究及び機関連携による研究協力

JAMSTEC では、研究開発によるイノベーションの創出、社会への成果還元を図るため、国内外の大学、企業、研究機関等と共同研究及び機関連携等の協力関係を構築しています。2014 年度については、共同研究契約としては国内 93 件、海外 45 件、機関間協定としては国内 18 件、海外 23 件について契約又は協定を結びました。また、企業ニーズとのマッチングを促進し、民間企業等との新たな連携関係及び共同研究を模索するため、外部機関との意見交換会を 32 件実施しました。

国内機関との共同研究契約締結数の推移と相手方の内訳

名称	2012年度	2013年度	2014年度
共同研究契約件数 (新規課題)	89 (36)	98 (27)	93 (30)
相手方内訳数 (新規相手方)	103 (43)	104 (32)	109 (38)
大学、大学共同利用機関法人	45 (19)	48 (14)	58 (20)
国、自治体、独立行政法人	33 (14)	35 (11)	27 (8)
民間、財団法人等	25 (10)	21 (7)	24 (10)

注1：() 内は新規課題数又は新規相手方の数

注2：相手方が複数にまたがる共同研究もあるため、表の合計は本文と一致しない場合があります。

国際連携とプロジェクトの推進に係る 2014 年度の主な実績

国際機関・国際条約関連	第 47 回 IOC 執行理事会及び国家管轄権外域の海洋生物多様性の保全と利用 (BBNJ) に関する国連非公式作業部会に出席しました。また、IOC 協力推進委員会及び国内専門部会を開催し、広く専門家による意見交換を実施しました。他にも、地球観測に関する政府間会合 (GEO) ワークプランシンポジウムに出席し、観測や観測データ共有の進捗及び次期 GEO のあり方を議論しました。
海外研究機関との連携	ブラジル科学技術イノベーション省、インド地球科学省それぞれと、新たに海洋分野における研究協力に関する意図表明文書を締結しました。 また、オーストラリア地球科学研究所 (GA)、インド国立海洋研究所 (NIO)、ベトナム地質・鉱物資源研究所 (VIGMR)、ベトナム海洋天然資源・環境調査センター (MGMC) 及び ANZIC (豪州、ニュージーランド IODP コンソーシアム) を含む計 6 機関・1 コンソーシアムと覚書を新規に締結し、JAMSTEC の国際化をさらに進めました。
国際深海科学掘削計画 (IODP) の推進	アメリカ地球物理連合大会 (AGU) で、IODP と国際陸上科学掘削計画 (ICDP) の最新情報の周知を行うことを目的として、欧米の掘削船運航機関及び陸上掘削プログラムと共同で Town Hall Meeting を開催しました。米国国立科学財団 (NSF) を始め、各加盟国からも科学掘削プロジェクトの幅広い関係者の参加があり、会場では最新情報を提供し、科学掘削について様々な交流・議論が活発に行われました。
地球規模課題への対応	生物多様性及び生態系サービスに関する政府間プラットフォーム (IPBES) 第 1 回総会が開催され、アジア太平洋地域のパネルメンバーとして JAMSTEC の理事が選任されました。

5. 表彰・顕彰

JAMSTEC に所属する職員が次のとおり外部から表彰されました。なお、2014 年度発表分を掲載しています。詳細につきましては、ホームページで掲載しておりますのでご覧ください。

http://www.jamstec.go.jp/j/jamstec_news/award/

褒賞の名称	受賞者（受賞時の役職・所属を記載）
2013 年度日本地震学会若手学術奨励賞	野田博之研究員（数理科学・先端技術研究分野）
平成 25 年度岩の力学連合会賞（論文賞）	林為人グループリーダー（高知コア研究所）
第 43 回日本産業技術大賞・審査委員会特別賞	「深海探査機『江戸っ子 1 号』プロジェクト」（海洋工学センター）
2014 年度日本地球惑星科学連合フェロー	山形俊男ラボ所長（アプリケーションラボ）
2014 年度日本地球惑星科学連合フェロー	池田元美囑託（アプリケーションラボ）
平成 26 年度情報通信研究機構部内表彰 優秀賞（団体）	松浦正己（前部長）、吉田弘部長、石橋正二郎グループリーダー代理、福田達也技術主任、菅澤誠技術主任、大田豊技術主事、土居真知子事務スタッフ（海洋工学センター）
第 9 回 IOC/WESTPAC 国際科学シンポジウム 若手研究者賞（口頭発表部門）	中嶋亮太ポストドクトラル研究員（海洋生物多様性研究分野）
2014 年度日本気象学会賞受賞	阿部彩子招聘主任研究員（統合的気候変動予測研究分野）
2014 年度日本気象学会藤原賞受賞	時岡達志特任上席研究員（統合的気候変動予測研究分野）
第 19 回計算工学講演会グラフィックスアワード特別賞	阪口秀分野長（数理科学・先端技術研究分野）
第 19 回計算工学講演会グラフィックスアワード特別賞	西浦泰介技術研究員（数理科学・先端技術研究分野）
TMS joint Foraminifera and Nannofossil Spring Meeting 2014 Presentation Awards	豊福高志主任研究員（海洋生物多様性研究分野）
NIMS CONFERENCE 2014 最優秀ポスター賞	木下圭剛ポストドクトラル研究員（海洋生命理工学研究開発センター）
第 7 回 海洋立国推進功労者表彰 [7th International Scientific Conference on the Global Water and Energy Cycle] 若手研究者賞受賞	「深海探査機『江戸っ子 1 号』プロジェクト」（海洋工学センター）
米国地球物理学連合（American Geophysical Union; AGU）2014 年のフェローに選出	山崎大研究員（統合的気候変動予測研究分野）
平成 25 年度特別研究員等審査会専門委員（書面担当）表彰	小平秀一研究開発センター長（地震津波海域観測研究開発センター）
2014 年度日本気象学会正野賞	石川剛志グループリーダー（高知コア研究所）
第 12 回産学官連携功労者表彰 内閣総理大臣賞	松井仁志研究員（地球表層物質循環研究分野）
日本第四紀学会若手発表賞	「深海探査機『江戸っ子 1 号』プロジェクト」（海洋工学センター）
ION GNSS+2014 Best Presentation Awards	長島佳菜技術研究員（地球環境観測研究開発センター）
水文・水資源学会論文賞	藤田実季子技術研究員（シームレス環境予測研究分野）
2014 年度色材研究発表会 優秀ポスター賞	山崎大研究員（統合的気候変動予測研究分野）
日本生気象学会「第 53 回日本生気象学会大会若手・学生発表コンテスト」優秀賞	木下圭剛ポストドクトラル研究員（海洋生命理工学研究開発センター）
日本大気化学会奨励賞	井上智晴ポストドクトラル研究員（地球表層物質循環研究分野）
第 15 回極限環境生物学会年会 ポスター賞	松井仁志研究員（地球表層物質循環研究分野）
第 30 回素形材産業技術表彰 奨励賞	嶋根康弘技術副主任（海洋生命理工学研究開発センター）
第 30 回素形材産業技術表彰 第 3 回素形材連携経営賞「中小企業庁長官賞」	渡健介技術副主任（海洋工学センター）
Prince Albert I Medal	「深海探査機『江戸っ子 1 号』プロジェクト」（海洋工学センター）
日本気象学会 SORA 論文賞	山形俊男ラボ所長（アプリケーションラボ）
2014 年 SOLA 論文賞	長谷川拓也主任研究員（地球環境観測研究開発センター）
2014 年度日本地震学会学生優秀発表賞	美山透主任研究員（アプリケーションラボ）
第 17 回水産海洋学会論文賞	中尾篤史研究生（地球内部物質循環研究分野）
日本水路協会水路技術奨励賞	西川悠特任技術研究員、五十嵐弘道技術副主任、石川洋一グループリーダー
日本機械学会奨励賞（研究）	蒲地政文招聘上席研究員（地球情報基盤センター）
平成 26 年度日本地震学会論文賞	小林大洋主任技術研究員（地球環境観測研究開発センター）
the 2014 Editors' Citation for Excellence in Refereeing for Journal of Geophysical Research Oceans.	松田景吾研究員（地球情報基盤センター）
東レ理科教育賞奨励賞	有吉慶介技術研究員（地震津波海域観測研究開発センター）
2015 年度 日本海洋学会日高論文賞	相木秀則主任研究員（アプリケーションラボ）
日本海洋学会 奨励論文賞	桑野修研究員（数理科学・先端技術研究分野）
可視化情報学会平成 25 年度学会賞「映像賞」	小林大洋主任技術研究員（地球環境観測研究開発センター）
	谷本陽一招聘上席研究員（アプリケーションラボ）
	吉田晶樹主任研究員（地球深部ダイナミクス研究分野）